

病害虫発生予察情報

病害虫発生予察情報(美濃地域) 4月予報

【野菜類】コナジラミ類

寄生株率の高いほ場がトマト、イチゴの一部ほ場において確認されています。今後の気温は平年並と予想されており、施設内での発生増加が予測されるため、効果の高い薬剤によって発生初期の防除を徹底してください。なお、内張り内や暖房機下の雑草などでの寄生が考えられるため、それらの除去も行ってください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(4月)

作物	病害虫名 (防除適期)	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測					防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	
水稲	ヒメトビウンカ	並				＜第1世代幼虫発生(小麦)＞		・小麦での防除を行う。

小麦	生育	早	＜出穂＞					(さとのそら)
	赤かび病	並	＜感染＞					・ 赤かび病 高温多雨の気象条件で発生が助長される。ほ場ごとの生育状況をよく観察し、防除適期である開花盛期とその7~10日後の防除を徹底する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。
	うどんこ病	少	＜発生量増加＞					
	防除適期		赤かび病・うどんこ病▲~					

カキ	生育	早						(富有) 発芽期 3/5 (平年 3/18)
	フジコナカイガラムシ	並	＜新梢へ移動＞					・昨年、多発したほ場では注意する。薬剤防除は、散布ムラがないよう丁寧に行う。
	防除適期		▲~フジコナカイガラムシ					
ナシ	生育	早						(幸水) 発芽期 3/8 (平年 3/15)
	黒星病	やや少	＜感染＞					・開花期(平年 4/12)に降雨が多いと感染が拡大するため防除を行う。
	赤星病	やや少	＜感染＞					
防除適期		▲~赤星病・黒星病						

注1) ▲ : 防除適期

<施設野菜>

作物	病害虫名	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測	3月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。花がらや果梗等から発生しやすく、今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、発生が予測される。	少	・ アザミウマ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。 ・ ハダニ類 ほ場内をよく観察し、天敵導入後もハダニ類の発生が抑制できない場合には薬剤防除を実施する。薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	うどんこ病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、発生が予測される。	少	
	ハダニ類	多	調査ほ場で発生が認められる。施設全体で発生が認められ、今後、気温の上昇とともに増加が予測される。	多	
	アザミウマ類	やや多	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	並	
	コナジラミ類	多	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	多	
トマト	灰色かび病	やや多	葉先枯れ等の枯死部位で発病が認められる。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	並	・ コナジラミ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	少	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種では今後も発生は少ないと予測されるが、一部の罹病性品種では発生すると予測される。	少	・ べと病 曇雨天が続くと発生量が増加するため、薬剤防除を行う。 ・ アザミウマ類(ミナミキイロ) MYSV(メロン黄化えそウイルス)を媒介するため、低密度でも薬剤防除を行う。
	うどんこ病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるが、急激な増加は無いと予測される。	少	
	べと病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。今後、降水量は平年並~少ないと予想されており、急激な発生は無いと予測される。	少	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により発生が予測される。	少	
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により発生が予測される。	少	

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 調査品種: イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(CF桃太郎J: 葉かび病耐病性)、キュウリ(極光・千秀2号: 褐斑病耐病性)

数値データ

(調査：岐阜・西濃地域3月)

イチゴ		H30	平年
灰色かび病	(発病果率)	0	(0.2)
うどんこ病	(発病株率)	0	(0.1)
ハダニ類	(寄生株率)	20.0	(11.9)
アザミウマ類	(寄生花率)	11.0	(9.8)
コナジラミ類	(寄生株率)	2.7	(1.1)
トマト			
灰色かび病	(発病果率)	0.9	(0.3)
灰色かび病	(発病株率)	4.6	(5.5)
コナジラミ類	(誘殺頭数)	0.3	(1.9)
キュウリ			
褐斑病	(発病葉率)	0	(0.1)
うどんこ病	(発病葉率)	0.2	(1.3)
べと病	(発病葉率)	0	(0.0)
アザミウマ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)
コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)

注1) () 内数値は平年値、単位は株率・花率・果率・葉率は%、頭数は頭

注2)イチゴは3ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注3)トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板1枚あたりの誘殺数 (調査期間：3/1~3/Ⅲ)

野菜類 微小害虫

ヒラズハナアザミウマは、イチゴ果実に傷を生じ問題となりますが、寄生花率が高まっているため、今後の発生に注意が必要です。

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病のウイルスをそれぞれ媒介し、低密度でも大きな被害を与えます。

一部ほ場においてキュウリ黄化えそ病、トマト黄化葉巻病の発病が認められています。

今後は気温の上昇とともに、媒介虫の増加が予測されるため、施設内をよく観察し、これら微小害虫の発生に注意してください。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ



ミナミキイロアザミウマ

果樹 カメムシ類

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (頭)

調査場所		H30	平年
岐阜市	東秋沢	0	2.3
	彦坂川南	0	1.5
海津市	南濃町奥条	0	1.9
大野町	牛洞	0	0.3
本巣市	法林寺	0	1.4
美濃市	曾代	3.0	2.1
美濃加茂市	山之上西洞	0.5	1.4
	山之上中之番	1.0	0.9
中津川市	落合	0	0.4
	千旦林	3	0.7
	阿木	2	0.6
平均		0.9	1.2

注1)H31.1/22~3/5 落葉採取

注2)調査地点あたり落葉を50L採取し、ハンドソーティングにより調査

チャバネアオカメムシは落葉下で越冬するため、越冬量が多い年は5月~7月の発生が多くなる傾向があります。そこで、越冬成虫の発生量を予測するための目安として、落葉を採取し越冬量調査を行います。

H26年度は果樹カメムシ類の注意報が2回発表され、カキ、ナシ等の果樹において多くの被害が見られました。その時の越冬量調査では、3.7頭(11カ所平均)と高い数値でした。

今回のチャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、11調査地点中5地点で越冬が確認され、県下全域での確認数は0.9頭と平年(1.2頭)よりやや少ない状況となっています。

越冬世代成虫は、4月下旬から餌探索飛行行動を開始します。5月上旬中にサクラ果実が結実する頃に、そちらへ移動し食害します。サクラ果実を食い尽くした場合、7月上旬頃にスギ・ヒノキの果実が結実するまで、ウメ、モモ、ナシ、カキ等の果樹園へ飛来すると考えられるため、今後の情報に注意してください。

今後は、予察灯・フェロモントラップの誘殺数(4月~)、サクラ果実吸汁率(5月)の調査を実施し、情報を提供いたします。

＝施設栽培の病害虫防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 3月21日)

向こう1カ月の気温は平年並、降水量は平年並~少なく、日照時間は平年並と予想されます。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767